

講義概要

SYLLABUS



学校法人 石川学園

専門学校 大育 歯科衛生士科

社会に貢献できる豊かな専門性を磨く

資格の時代を迎えた今、教育の世界では「個性が大切だ」とよく言われます。また、「教育は自立が大切だ」とも言われます。人間は社会に貢献できる専門性を持って初めて自立することができます。

本校は美容師、調理師、歯科衛生士、介護福祉士、旅行業務取扱管理者など、いずれもわが国または本県の将来において有望で社会のニーズの高い国家職業資格の取得を目指しています。県内における歯科衛生士養成施設の定員増によって県内で資格取得ができるチャンスが増え、多くの若い世代に夢を実現させるチャンスを与えることができました。

本学園では、各分野のスペシャリストを目指す若者が自らの目標に向かって努力しており、高い資格取得率や就職率は本校の最も誇りとするところであります。より高い資格の取得は、世の中に貢献できる人材としての専門性、個性を磨き続ける切磋琢磨の過程にあります。練習に練習を重ね、自らの限界に挑戦すればおのずと創意工夫のできる人材が育成されます。

本校では、充実した多くの職業分野を目指す学生たちが常に切磋琢磨できる雰囲気作りや環境作りを心掛けています。

校訓

立志根性

勇断責任

創意工夫

目 次

1 専門学校 大育 沿革 -----	1
2 行事予定表 -----	3
3 各種検定一覧 -----	5
4 履修科目一覧 -----	6
5 講義概要-----	8

専門学校 大育

－ 学校の沿革 －

昭和 50 年 3 月 1 日	那覇市首里石嶺町 4 丁目 1 3 1 番地に大育簿記会計学院を設立
昭和 52 年 4 月 1 日	大育簿記会計学院が学校教育法に規定する各種専門学校としての認可を受けた。
昭和 57 年 1 月 29 日	学校教育法に規定する専修学校の認可を受け、大育ビジネス専門学校と改称した。
昭和 59 年 4 月 1 日	那覇市首里儀保町 4 丁目 6 番地に新校舎 5 階建が完成し、大育情報ビジネス専門学校を移転した。
昭和 60 年 12 月 9 日	大育ビジネス専門学校の専門課程に加え、新たに高等課程の設置認可を受けた。
昭和 63 年 4 月 1 日	大育ビジネス専門学校を那覇市大道 7 7 番地に新築移転し、校名を大育情報ビジネス専門学校と改称した。また、旧校舎では大育ビジネス高等専修学校の認可を受けて高等課程を分離独立した。
昭和 63 年 6 月 10 日	大育ビジネス高等専修学校が県内唯一の大学受験資格付与指定校の指定を受けた。
昭和 63 年 7 月 8 日	大育情報ビジネス専門学校新校舎の落成式及び祝賀会を举行了。
平成 元年 9 月 10 日	全国経理学校協会主催 全国簿記競技大会に大育ビジネス高等専修学校が九州代表として出場し、全国優勝の栄誉に輝き、文部大臣賞を獲得した。
平成 2 年 2 月 28 日	那覇市首里宜町 4 丁目 6 番地に私立学校法が規定する学校法人の設立認可を受け大育ビジネス高等専修学校が、学校法人 石川学園に組織変更した。
平成 4 年 9 月 13 日	全国経理学校協会主催 全国簿記競技大会に九州代表として大育ビジネス専修学校が出場し、団体及び個人総合の部で完全優勝の栄誉に輝き文部大臣賞を獲得した。
平成 5 年 3 月 1 日	学校法人 石川学園大育ビジネス高等専修学校の名称を大育高等専修学校と改称した。また、那覇市大道 5-1 に校舎を新築し、大育電子専門学校の設立認可を受けた。
平成 7 年 4 月 1 日	大育電子専門学校に教育・社会福祉専門課程を新設し、校名を大育電子医療専門学校と改称した。
平成 9 年 3 月 6 日	大育高等専修学校が技能教育施設の指定を受け、北海道のクラーク記念国際高等学校（広域通信制高等学校）との技能連携がスタートした。

- 平成 16 年 3 月 1 日 大育電子医療専門学校は、厚生労働省の指定する美容師養成施設の認可を受けるため、那覇市大道 5 番地の 1 の大育高等専修学校の校舎に移転した。また、校名も大育美容福祉専門学校と改称した。
- 平成 16 年 12 月 30 日 かねて建設中であった新校舎が完成し、厚生労働省の指定する歯科衛生士、調理師の養成施設の認可を受けた。また、校名も専門学校 大育と改称した。
- 平成 22 年 12 月 15 日 かねてより申請中であった厚生労働省指定の製菓衛生師養成施設が認可された。
- 平成 23 年 4 月 1 日 専門学校 大育は厚生労働省指定の製菓衛生師養成施設の設置認可に伴い、歯科衛生士、調理師、製菓衛生師の養成施設となった。

主な年間行事

第1学年 年間行事	
4月	入学式 球技大会
5月	1・2年生交流会 学力考查
6月	健康診断 職業理解週間
7月	夏期講座 学力考查
8月	夏期講座 夏休み
9月	前期試験
10月	後期授業開始 学園祭
11月	職業理解週間 学力考查
12月	冬休み
1月	学力考查
2月	後期試験
3月	終業式 春休み

第2学年 年間行事	
4月	始業日 球技大会
5月	1・2年生交流会 学力考查
6月	健康診断 職業理解週間
7月	夏期講座 学力考查
8月	夏期講座 夏休み
9月	前期試験
10月	後期授業開始 学園祭
11月	職業理解週間 学力考查
12月	戴灯式 冬休み
1月	臨床実習開始
2月	後期試験
3月	終業式 春休み

第3学年 年間行事	
4月	始業式 前期臨床実習開始 球技大会
5月	学力考查
6月	職業理解週間
7月	夏期講座 学力考查 後期臨床実習開始
8月	国家試験対策模試 夏休み
9月	前期試験
10月	後期授業開始 学園祭
11月	テーブルマナー 職業理解週間
12月	冬季講座 冬休み
1月	冬季試験対策講座
2月	模試
3月	国家試験 卒業式

各種検定一覧

種目	主催	試験日
歯科衛生士国家試験	歯科医療研修振興財団	3月第1日曜日
医療事務管理士（歯科）	日本医療事務振興協会	奇数月の第4土曜日
文書処理能力検定	全国経理教育協会	R5年 7月 R5年11月 R6年 2月
情報処理技能検定 （表計算）	日本情報処理検定協会	R5年10月 R5年12月 R6年 2月
社会人常識マナー検定	全国経理教育協会	R5年 9月 R6年 1月

履修科目一覧

歯科衛生士課 3年課程

NO1

教育内容	科目	1 年		2 年		3 年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期
科学的思想の 基礎	生物学	○					
	化学		○				
人間と生活	心理学	○					
	社会学		○				
	英語会話	○	○				
	歯科英語	○	○				
人体の構造と 機能	解剖学	○	○				
	組織・発生学	○					
歯・口腔の構 造と機能	口腔解剖学・歯牙解剖学		○	○			
	生理学	○					
疾病の成り立 ち及び回復過 程の促進	病理学	○		○			
	薬理学		○		○		
	微生物学		○	○			
歯・口腔の健 康と予防に関 わる人間と社 会の仕組み	口腔衛生学	○	○	○			
	衛生学・公衆衛生学		○				
	衛生行政学			○			
	社会福祉概論				○		
歯科衛生士 概論	歯科衛生士概論	○					
	生命・医療倫理学		○				
臨床歯科医学	歯科臨床概論	○					
	歯科補綴学				○		
	口腔外科学				○		
	矯正歯科学				○		
	歯科保存学		○				
歯科予防処置論	歯科予防処置法	○	○	○	○	○	○
歯科保健 指導論	栄養指導		○				
	歯科保健指導法	○	○	○	○		
歯科診療 補助論	歯科材料	○					
	臨床検査法			○			
	歯科診療補助論	○					
	歯科診療補助実習	○	○	○	○	○	○
臨地・臨床	臨地・臨床実習			○	○	○	○

履修科目一覧

歯科衛生士課 3年課程

NO2

教育内容	科目	1 年		2 年		3 年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期
選択必修分野	情報処理論					○	○
	医学の基礎知識	○	○				
	接遇作法			○			
	医療関係法規	○	○				
	歯科医療事務				○		
	対策講座						○

科・学年		歯科衛生士科 1年	
科目名 年間授業時数	生物学 30時間	担当教員	臨床検査技師

(1) 科目の目的と講義内容

基礎科目の「科学的思考の基盤」という領域での生物学を学ぶ。

この科目は、歯科衛生士科という仕事の中で基礎知識として知っておかなければならない重要な分野である。後に生化学等へ発展する形で実際の職場で使われる薬剤の知識につなげて解説していく。

講義レベルとしては、高等学校卒業程度とし高等学校履修範囲はすべて網羅した上でさらに必要な範囲・知識を追加していく。

(2) 目指す検定・資格

歯科衛生士国家資格

(3) 指導方法および学生に期待すること

授業は、一斉授業を基本に実施するが、実験実習などを適宜取り入れ、グループ単位で活動させるといった形式をとることもある。

初学者も想定した授業も想定しているので、出身高等学校のカリキュラム上履修していない部分があっても安心されたい。

(4) テキスト

医歯薬出版新歯科衛生士教本

「生物学」その他参考文献は適宜紹介する。

(5) 成績評価の方法・基準

期末における筆記試験を定期的に行い、授業出席率・授業態度および課題提出等を総合的に判断し評価する。ただし、出席率が85%を下回る場合は不可とする。

(6) 講義計画

- 1章 生物学と人間
- 2章 生物体の成り立ち
 1. 生命の単位
 2. 細胞の構造と機能
 3. 組織と器官
- 3章 生物体の働き
 1. 物質代謝とエネルギー代謝
 2. 動物体の働き
- 4章 生物体の調整
 1. 神経とその働き
 2. ホルモンによる調整
 3. ホメオスタシス
 4. 動物の行動
- 5章 生命の連続性
 1. 生殖
 2. 発生と分化
 3. 遺伝と変異
- 6章 生物の集団
 1. 個と集団
 2. 自然と人間
- 7章 生命の返還
 1. 生命の起源
 2. 進化とその仕組み
 3. 人間の未来

科・学年		歯科衛生士科 1年	
科目名 年間授業時数	化学 30時間	担当教師	臨床検査技師

(1) 科目の目的と講義内容

化学は、歯科衛生士という仕事の中で基礎知識として知っておかなければならない重要な分野である。後に生化学、薬理学等へ発展する形で実際の職場で使われる薬剤の知識につなげて解説していく。

講義レベルとしては、高等学校卒業程度とし、高等学校履修範囲は全て網羅した上で、さらに必要な範囲・知識を追加していく。

(2) 目指す検定・資格

歯科衛生士国家資格

(3) 指導方法及び学生に期待すること

授業は、一斉授業を基本に実施するが、実験実習等を適宜取り入れ、グループ単位で活動させるといった形式を取ることもある。出身高等学校のカリキュラム上履修していない部分があっても安心されたい。

(4) テキスト

医歯薬出版新歯科衛生士教本

「化学」

その他参考文献は適宜紹介する。

(5) 成績評価の方法・基準

学期途中及び期末に筆記試験を実施し、授業出席率・受講態度及び課題提出等を総合的に判断し評価する。

ただし、出席率が85%を下回る場合は不可とする。

(6) 講義計画

- 1章 化学とは
- 2章 物質の構造
 1. 物質を構成する元素
 2. 元素の周期律
 3. 化学結合
 4. 放射線と原子
- 3章 物質の状態
- 4章 物質の変化
 1. 化学反応と化学平衡
 2. 酸・塩基の電離と反応
 3. 難溶性塩の化学平衡
 4. 錯イオンの化学平衡
 5. 酸化還元反応と電池
- 5章 熱力学
 1. 熱力学
 2. 自由とエネルギー
 3. 食物とエネルギー
- 6章 無機化学
- 7章 有機化学
 1. 有機化合物の分類
 2. 脂肪族・脂環族炭化水素
 3. 芳香族炭化水素
 4. 炭化水素のハロゲン置換体
 5. 複素環式化合物
 6. アルコール類・フェノール類
 7. エーテル
 8. カルボニル化合物・カルボン酸
 9. エステル
 10. アミン・アミド
 11. ニトロ化合物
- 8章 生態関連物質の化学
 1. 糖質
 2. アミノ酸とたんぱく質
- 9章 高分子化学

科・学年		歯科衛生士科 1年	
科目名 年間授業時数	心理学 30時間	担当教師	臨床心理カウンセラー

(1) 科目の目的と講義内容

「人間と社会生活の理解」を深めるために基礎科目として心理学を学ぶ。まず、心理学のあらましを学習し、その上で歯科衛生士の業務に関係の深い心理学を学ぶ。特に実際の臨床場面で役立つように、患者特有の心の動きやそれに対する心理学的な対応の要点などを具体的に学ぶ。

(2) 目指す検定・資格

なし

(3) 指導方法および学生に期待すること

授業は、一斉授業を基本に実施するが、テーマによってはグループ学習やロールプレイ等を取り入れていくので、主体的に学習して欲しい。

(4) テキスト

医歯薬出版新歯科衛生士教本

「生物学」その他参考文献は適宜紹介する。

(5) 成績評価の方法・基準

期末における筆記試験を定期的実施し、授業出席率・授業態度および課題提出等を統合的に判断し評価する。ただし、出席率が85%を下回る場合は不可とする。

(6) 講義計画

- 1章 見る・聞く・感じるころ
- 2章 学ぶ・覚えるころ
- 3章 やる気の心理
- 4章 喜怒哀楽のころ
- 5章 その人らしさの心理（パーソナリティ）
- 6章 かしこさの心理
- 7章 考えるころ
- 8章 発達するころ（1）
- 9章 発達するころ（2）
- 10章 人と関わる心理
- 11章 人と集うころ
- 12章 健康な心
 - (1) メンタルヘルス
 - (2) 心理臨床の対象
 - (3) 心理療法のいろいろ
- 13章 カウンセリングのころ
 - (1) カウンセリングとは
 - (2) カウンセリング・マインド
 - (3) ロジャーズの基本姿勢を取り入れた介入法
- 14章 思いを伝えあうころ
 - (1) 医療コミュニケーションの基礎
 - (2) 患者の理解を深める質問法
 - (3) 求められる歯科衛生士の姿勢
- 15章 心理学の歩みと研究法
- 16章 心理学で用いる統計

科・学年		歯科衛生士科 1年	
科目名 年間授業時数	社会学 30時間	担当教員	歯科衛生士

(1) 科目の目的と講義内容

高齢化社会に伴い在宅・施設での歯科医療サービスを提供する機会が増え、他の医療職種の人たちと関わるが多くなった。医療チームの一員として倫理的判断に基づいた行動がとれることが求められている。患者から信頼される専門職として活躍する為に講義を通し、歯科衛生士の意義を十分に理解して欲しい。

(2) 目指す検定・資格

歯科衛生士国家資格

(3) 指導方法および学生に期待すること

授業は、一斉授業を基本に実施する。歯科医療保健の概念を会得するとともに歯科衛生士としての心構えをもてることを目的とする。

(4) テキスト

医歯薬出版新歯科衛生士教本

「歯科医療倫理」・「心理学」

(5) 成績評価の方法・基準

期末における筆記試験を定期的 to 実施し、授業出席率・授業態度および課題提出等を総合的に判断し評価する。

ただし、出席率が85%を下回る場合は不可とする。

(6) 講義計画

医療倫理学

序章 今なぜ歯科衛生士は医療倫理を学ぶのか

1章 医療従事者としての歯科衛生士の心構え

2章 インフォームドコンセント

3章 QOL (クオリティーオブライフ：生活の質)

4章 行動科学とは

5章 チームアプローチとは

6章 医療現場におけるコミュニケーション
患者理解のために

7章 演習：このようなとき、歯科衛生士としてどう対処するか

付章 バイオエシックス (生命倫理) について

科・学年		歯科衛生士科 1 年	
科目名 年間授業時数	英語会話 60 時間	担当教員	英語検定 指導経験者

(1) 科目の目的と講義内容

プロフェッションとしての歯科衛生士になる為の英会話能力の習得、患者が理解しやすい必要基本的な表現力を養うことを目的とする。

(2) 目指す検定・資格

なし

(3) 指導方法および学生に期待すること

授業は一斉授業を基本に実施する。英会話の演習、グループワークも行う。歯科用語についても学んでいくのでしっかり理解ができるように取り組んで欲しい。

(4) テキスト

歯科用英語ハンドブック

(5) 成績評価の方法・基準

期末における筆記試験を定期的 to 実施し、授業出席率・授業態度および課題提出等を統合的に判断し評価する。ただし、出席率が 85 % を下回る場合は不可とする。

(6) 講義計画

- I 身近な英会話法
 - ア) 自分、家族について
 - イ) 日常の動作
 - ウ) 過去の動作
- II 受付
 - ア) 受付での英会話
 - イ) 予約での英会話
- III 患者との英会話
 - ア) よくある症状
 - イ) 一般歯科用語
 - ウ) 体の名称
 - エ) 痛みの表現
 - オ) 病歴
 - カ) 動作
- IV 歯科指導
 - ア) 薬の説明
 - イ) ブラッシング
 - ウ) 歯の健康

科・学年		歯科衛生士科 1年	
科目名 年間授業時数	歯科英語 60時間	担当教員	英語検定 指導経験者

(1) 科目の目的と講義内容

プロフェッションとしての歯科衛生士になる為の英会話能力の習得、外国の歯科関係文献の読解力を養うことを目的とする。

(2) 目指す検定・資格

なし

(3) 指導方法および学生に期待すること

授業は一斉授業を基本に実施する。英会話の演習、グループワークも行う。歯科用語についても学んでいくのでしっかり理解ができるように取り組んで欲しい。

(4) テキスト

医歯薬出版最新歯科衛生士教本 「歯科英語」

(5) 成績評価の方法・基準

期末における筆記試験を定期的 to 実施し、授業出席率・授業態度および課題提出等を統合的に判断し評価する。ただし、出席率が85%を下回る場合は不可とする。

(6) 講義計画

- | |
|---|
| <p>I 歯科衛生士の英会話法</p> <p>ア) 電話での予約</p> <p>イ) 投薬の説明</p> <p>ウ) 緊急患者</p> <p>エ) 健康保険</p> <p>オ) 症状・病歴</p> <p>カ) 歯周病</p> <p>キ) 妊産婦</p> <p>ク) ブラークコントロール</p> <p>ケ) インフォームドコンセント</p> <p>コ) シーラント</p> <p>サ) フッ素塗布</p> <p>シ) 子どもの歯の手入れに関する指導</p> <p>ス) 大人の歯の手入れに関する指導</p> <p>セ) 術後のケア</p> <p>ソ) アメリカの歯科医院事情</p> <p>II コラムリーリング</p> <p>III 重要単語</p> <p>ア) 歯科医療に携わる者</p> <p>イ) 歯科学</p> <p>ウ) 検査</p> <p>エ) 痛みの種類</p> <p>オ) 全身疾患</p> <p>カ) 歯科疾患</p> <p>キ) 歯・部位・人体各部位の名称</p> <p>ク) 口腔解剖用語</p> <p>ケ) 歯科用頻出単語</p> <p>コ) 患者向けの単語</p> <p>IV 歯科衛生士の仕事とは</p> |
|---|

科・学年		歯科衛生士科 1 年	
科目名 年間授業時数	解剖学 60 時間	担当教員	歯科医師

(1) 科目の目的と講義内容

専門基礎科目として「人体の構造と機能」を理解するために、解剖学を学ぶ。具体的な内容としては、解剖学—人体の構造を理解する。組織・発生学—組織、発生の概要を学び歯の発生、歯の組織について理解する。口腔解剖学—口腔の構造の概要、歯及び歯周組織の形態、口腔の隣接組織の構造等について理解する。

(2) 目指す検定・資格

歯科衛生士国家資格

(3) 指導方法及び学生に期待すること

授業は、一斉授業を基本に実施する。

高度なレベルの専門知識を熟得しなければならない為、示説を多くし理解が深められる様に努めるが、積極的な学習態度で臨んでほしい。

(4) テキスト

医歯薬出版新歯科衛生士教本

「解剖学、組織発生学、口腔解剖学」

(6) 講義計画

1. 解剖学
 - I 解剖学の意義
 - II 人体の構造
 - III 骨格系とその連結
 - IV 筋系
 - VI 脈官系
 - VII 神経系
 - VIII 感覚器系
2. 組織・発生学
 - I 組織
 - II 発生
 - III 口腔の組織
3. 口腔解剖学
 - I 口腔解剖学の意義
 - II 骨
 - III 筋
 - IV 脈官
 - V 神経
 - VI 歯
 - VII 歯周組織

(5) 成績評価の方法・基準

期末における筆記試験を定期的 to 実施し、授業出席率・受講態度及び課題提出等を総合的に判断し評価する。

ただし、出席率が 85% を下回る場合は不可とする。

科・学年		歯科衛生士科 1 年	
科目名 年間授業時数	組織・発生学 30 時間	担当教員	歯科医師

(1) 科目の目的と講義内容

専門基礎科目として「人体の構造と機能」を理解するために、解剖学を学ぶ。具体的な内容としては、解剖学—人体の構造を理解する。組織・発生学—組織、発生の概要を学び歯の発生、歯の組織について理解する。口腔解剖学—口腔の構造の概要、歯及び歯周組織の形態、口腔の隣接組織の構造等について理解する。

(2) 目指す検定・資格

歯科衛生士国家資格

(3) 指導方法及び学生に期待すること

授業は、一斉授業を基本に実施する。

高度なレベルの専門知識を熟得しなければならない為、示説を多くし理解が深められる様に努めるが、積極的な学習態度で臨んでほしい。

(4) テキスト

医歯薬出版新歯科衛生士教本

「解剖学、組織発生学、口腔解剖学」

(6) 講義計画

1. 解剖学
 - I 解剖学の意義
 - II 人体の構造
 - III 骨格系とその連結
 - IV 筋系
 - VI 脈官系
 - VII 神経系
 - VIII 感覚器系
2. 組織・発生学
 - I 組織
 - II 発生
 - III 口腔の組織
3. 口腔解剖学
 - I 口腔解剖学の意義
 - II 骨
 - III 筋
 - IV 脈官
 - V 神経
 - VI 歯
 - VII 歯周組織

(5) 成績評価の方法・基準

期末における筆記試験を定期的 to 実施し、授業出席率・受講態度及び課題提出等を総合的に判断し評価する。

ただし、出席率が 85% を下回る場合は不可とする。

科・学年		歯科衛生士科 1・2年	
科目名 年間授業時数	口腔解剖学・歯牙解剖学 30時間（1年） 30時間（2年）	担当教員	歯科医師

（１）科目の目的と講義内容

専門基礎科目として「人体の構造と機能」を理解するために、解剖学を学ぶ。具体的な内容としては、解剖学—人体の構造を理解する。組織・発生学—組織、発生の概要を学び歯の発生、歯の組織について理解する。口腔解剖学—口腔の構造の概要、歯及び歯周組織の形態、口腔の隣接組織の構造等について理解する。

（２）目指す検定・資格

歯科衛生士国家資格

（３）指導方法及び学生に期待すること

授業は、一斉授業を基本に実施する。

高度なレベルの専門知識を熟得しなければならない為、示説を多くし理解が深められる様に努めるが、積極的な学習態度で臨んでほしい。

（４）テキスト

医歯薬出版新歯科衛生士教本

「解剖学、組織発生学、口腔解剖学」

（６）講義計画

1. 解剖学
 - I 解剖学の意義
 - II 人体の構造
 - III 骨格系とその連結
 - IV 筋系
 - VI 脈官系
 - VII 神経系
 - VIII 感覚器系
2. 組織・発生学
 - I 組織
 - II 発生
 - III 口腔の組織
3. 口腔解剖学
 - I 口腔解剖学の意義
 - II 骨
 - III 筋
 - IV 脈官
 - V 神経
 - VI 歯
 - VII 歯周組織

（５）成績評価の方法・基準

期末における筆記試験を定期的に行い、授業出席率・受講態度及び課題提出等を総合的に判断し評価する。

ただし、出席率が85%を下回る場合は不可とする。

科・学年		歯科衛生士科 1 年	
科目名 年間授業時数	生理学 30 時間	担当教員	歯科医師

(1) 科目の目的と講義内容

専門基礎科目として「人体の構造と機能」を理解するために、生理学を学ぶ。

まず生理学の概要を学び歯及び口腔の整理について理解することを目的とする。

(2) 目指す検定・資格

歯科衛生士国家資格

(3) 指導方法及び学生に期待すること

授業は、一斉授業を基本に実施する。

臨床に関する科目との連携をとりながらできるだけ示説の形をとりながら説明していくので、積極的な学習態度で臨んで欲しい。

(4) テキスト

医歯薬出版新歯科衛生士教本
「生理学」

(5) 成績評価の方法・基準

期末における筆記試験を定期的 to 実施し、授業出席率・受講態度及び課題提出等を総合的に判断し評価する。

ただし、出席率が85%を下回る場合は不可とする。

(6) 講義計画

1. 人体生理の概要

1 章 生理学の意義

2 章 細胞

3 章 血液

4 章 循環

5 章 呼吸

6 章 筋

7 章 神経

8 章 感覚

9 章 消化と呼吸

10 章 排泄

11 章 体温

12 章 内分泌

13 章 生殖

2. 口腔生理学

1 章 口腔衛生学の概要

2 章 歯及び歯周組織の生理学

3 章 嚙合と咀嚼

4 章 吸飲・嚥下・嘔吐・口呼吸・口臭

5 章 歯及び口腔の感触

6 章 唾液分泌

7 章 発声

科・学年		歯科衛生士科 1・2年	
科目名 年間授業時数	病理学 30時間（1年） 15時間（2年）	担当教員	薬剤師

（１）科目の目的と講義内容

専門基礎科目として「疾病の成り立ちと回復の促進」を理解するために病理学を学ぶ。病理学の概要を学び、全身の病理および口腔病理について十分に理解していく。

（２）目指す検定・資格

歯科衛生士国家資格

（３）指導方法及び学生に期待すること

授業は、一斉授業を基本に実施する。実習は必要に応じて適宜行い顕微鏡で標本を見せながら示説を加えた授業の展開を考えているので、積極的な態度で臨んで欲しい。

（４）テキスト

医歯薬出版新歯科衛生士教本
「病理学」

（５）成績評価の方法・基準

期末における筆記試験を定期的 to 実施し、授業出席率・受講態度及び課題提出等を総合的に判断し評価する。

ただし、出席率が85%を下回る場合は不可とする。

（６）講義計画

病理学

- I 病理学序論・病因論・遺伝性疾患・奇形
- II 代謝障害・増殖と修復・循環障害
- III 炎症と免疫
- IV 腫瘍
- V 口腔病理学とは・歯の発育異常
歯の機械的、化学的損傷
- VI 歯の付着物、沈着物・象牙質とセメント質の増生、歯髄と歯根膜の石灰化・う蝕・歯髄の病変
- VII 歯周組織の病変
- VIII 口腔粘膜創と抜歯創の治癒・口腔粘膜の病変・エプーリス
- IX 口腔領域の奇形・顎骨の病変・口腔領域のう胞・口腔領域の腫瘍・口腔領域の加齢変化
- X 口腔病理試験

科・学年		歯科衛生士科 1年	
科目名 年間授業時数	薬理学 30時間（1年） 15時間（2年）	担当教員	薬剤師

（１）科目の目的と講義内容

専門基礎科目として「疾病の成り立ちと回復の促進」について理解するために薬理学を学ぶ。

歯科衛生士が、医療スタッフの専門職として勤務していく上で薬理学は必要な知識である。一般薬理学および歯科薬理学の概要を学び、歯科衛生士として必要な薬理学についての理解を十分に深めることを目的とする。

（２）目指す検定・資格

歯科衛生士国家資格

（３）指導方法及び学生に期待すること

授業は、一斉授業を基本に実施する。

臨床に関する科目との連携を十分に取りながら進めていくが、専門用語が多く出現してくるのでしっかり理解できるように復習等をこなして欲しい。

（４）テキスト

医歯薬出版新歯科衛生士教本
「薬理学」

（５）成績評価の方法・基準

期末における筆記試験を定期的 to 実施し、授業出席率・受講態度及び課題提出等を総合的に判断し評価する。ただし、出席率が85%を下回る場合は不可とする。

（６）講義計画

- 1章 総論（薬理学の意義）
- 2章 医薬品、剤形、処方箋と調剤
 - I 薬品
 - II 薬剤の剤形
 - III 処方箋と調剤
- 3章 中枢神経に作用する薬物
 - I 中枢神経系とは
 - II 中枢神経系に作用する薬物
- 4章 末梢神経に作用する薬物
 - I 末梢神経とは
 - II 局所麻酔薬とは
 - III 自律神経に作用する薬物
- 5章 呼吸・循環器系に作用する薬物
- 6章 止血薬
 - I 出血と止血
 - II 止血薬
 - III 血液凝固阻止薬
- 7章 抗炎症薬
- 8章 ビタミン・ホルモン
- 9章 病原微生物に作用する薬物
 - I 感染と感染症
 - II 消毒薬
 - III 化学療法薬
- 10章 悪性腫瘍治療薬
- 11章 腐食・収斂薬
- 12章 歯内療法に使用する薬
- 13章 歯周療法に使用する薬
- 14章 口腔用薬
- 15章 う蝕の予防に使用する薬
 - I う蝕のでき方
 - II う蝕の予防
 - III 歯磨剤
 - IV フッ化物によるう蝕予防
 - V 予防 塞剤
 - VI プラーク染め出し剤

科・学年		歯科衛生士科 1・2年	
科目名 年間授業時数	微生物学 30時間（1年） 15時間（2年）	担当教員	歯科医師 歯科衛生士

（１）科目の目的と講義内容

専門基礎科目として疾病の成り立ちと回復の促進について理解するために微生物学を学ぶ。まず微生物学の概要を学び、歯及び口腔に常在する微生物について十分理解することを目的とする。

（２）目指す検定・資格

歯科衛生士国家資格

（３）指導方法及び学生に期待すること

授業は、一斉授業を基本に実施する

臨床検査に関する実験実習などと連携を取りながら、実験実習を必要に応じて適宜取り入れていく。

グループ単位で学習させるといった形式をとることもある。

（４）テキスト

医歯薬出版新歯科衛生士教本

「微生物学」

その他参考文献は適宜紹介する。

（５）成績評価の方法・基準

期末における筆記試験を定期的 to 実施し、授業出席率・受講態度及び課題提出等を総合的に判断し評価する。

ただし、出席率が85%を下回る場合は不可とする。

（６）講義計画

- 1章 微生物学の発達と歴史
- 2章 微生物の一般性状
 - 1, 細菌
 - 2, 真菌
 - 3, 原虫
 - 4, ウイルス
- 3章 微生物観方法
 - 1, 培養
 - 2, 顕微鏡観察方法
- 4章 感染
 - 1, 感染と発症
 - 2, 感染の経路と予防・法規
- 5章 免疫
- 6章 病原微生物各論
- 7章 化学療法
 - 1, 化学療法剤
 - 2, 薬剤耐性
- 8章 滅菌と消毒
 - 1, 環境
 - 2, 唾液
 - 3, 歯肉溝液
- 9章 口腔内常在微生物
- 10章 口腔感染症

科・学年		歯科衛生士科 1・2年	
科目名 年間授業時数	口腔衛生学 60時間（1年） 15時間（2年）	担当教員	歯科医師 歯科衛生士

（１）科目の目的と講義内容

専門基礎科目として「歯・口腔の健康と予防にかかわる人間と社会の仕組み」を理解するために口腔衛生学を学ぶ。

口腔衛生における一般的な知識を学び、また歯科における公衆衛生活動の実際についての知識及び技能を修得することを目的とする。

（２）目指す検定・資格

歯科衛生士国家資格

（３）指導方法及び学生に期待すること

授業は、一斉授業を基本に実施する。

公衆衛生活動に関する指導は他の関係職種との協調性を重視する為、機会が得られれば見学等の授業も取り入れていく。歯科衛生統計に関する指導については実際に資料の処理ができるよう適宜実習も行う。

（４）テキスト

医歯薬出版新歯科衛生士教本
「保健生態学」

（５）成績評価の方法・基準

期末における筆記試験を定期的実施し、授業出席率・受講態度及び課題提出等を総合的に判断し評価する。

ただし、出席率が85%を下回る場合は不可とする。

（６）講義計画

- | | |
|----|------------------|
| I | 口腔衛生学 |
| 1章 | 口腔衛生学（保健生態学）の意義 |
| 2章 | 疫学 |
| 3章 | 人口 |
| 4章 | 健康と環境 |
| 5章 | 感染症 |
| 6章 | 食品と健康 |
| II | 歯・口腔の健康と予防 |
| 1章 | 定義 |
| 2章 | 口腔清掃 |
| 3章 | 歯科疾患の疫学 |
| 4章 | 齲蝕の予防 |
| 5章 | フッ化物による齲蝕予防 |
| 6章 | 歯周疾患の予防 |
| 7章 | 不正咬合の予防 |
| 8章 | その他の疾患・異常の予防 |
| 9章 | ライフステージごとの口腔保健管理 |

科・学年		歯科衛生士科 1年	
科目名 年間授業時数	衛生学・公衆衛生学 30時間	担当教員	歯科医師

(1) 科目の目的と講義内容

衛生学・公衆衛生学の概要を学び、公衆衛生活動の基礎的な知識について理解することを目的とする。

(2) 目指す検定・資格

歯科衛生士国家資格

(3) 指導方法および学生に期待すること

授業は、一斉授業を基本に実施する。

母子保健、学校保健および、成人、老人保健についてはその関係法規を理解し、具体的な活動に結び付けてほしい。

(6) 講義計画

- | | |
|-----|---------|
| 1章 | 総論 |
| 2章 | 人口 |
| 3章 | 環境と健康 |
| 4章 | 疫学 |
| 5章 | 感染症 |
| 6章 | 食品と健康 |
| 7章 | 地域保健 |
| 8章 | 母子保健 |
| 9章 | 学校保健 |
| 10章 | 成人・老人保健 |
| 11章 | 産業保健 |
| 12章 | 精神保健 |

(4) テキスト

医歯薬出版新歯科衛生士教本

「衛生学・公衆衛生学」

(5) 成績評価の方法・基準

期末における筆記試験を定期的 to 実施し、授業出席率・授業態度および課題提出等を統合的に判断し評価する。ただし、出席率が85%を下回る場合は不可とする。

科・学年		歯科衛生士科 2年	
科目名 年間授業数	衛生行政 15 時間	担当教員	歯科医師 歯科衛生士

(1) 科目の目的と講義内容

衛生行政・社会福祉の概要を理解し歯科衛生士業務を適正に実施できるよう必要な法規について十分理解できることを目的とする。

(2) 目指す検定・資格

歯科衛生士国家資格

(3) 指導方法および学生に期待すること

授業は、一斉授業を基本に実施する。

衛生行政・社会福祉に関する一般的知識講義するとともに、包括的に社会保障制度についても触れていく。また、業務に従事するにあたっての心構えについても指導していくのでしっかり学んで欲しい。

(4) テキスト

医歯薬出版新歯科衛生士教本
「衛生行政・社会福祉」

(5) 成績評価の方法・基準

期末における筆記試験を定期的 to 実施し、授業出席率・授業態度および課題提出等を統合的に判断し評価する。ただし、出席率が85%を下回る場合は不可とする。

(6) 講義計画

2 章 社会福祉

I 社会福祉行政

II 公的扶助

III 社会福祉の実際

3 章 医療保健

I 医療保健の概要

II 医療保健の仕組み

III 医療保健の実際

付章 歯科関係法令

I 歯科衛生士関係法令

II その他関係法令

科・学年		歯科衛生士科 2年	
科目名 年間授業数	社会福祉概論 15時間	担当教員	歯科衛生士

(1) 科目の目的と講義内容

衛生行政・社会福祉の概要を理解し歯科衛生士業務を適正に実施できるよう必要な法規について十分理解できることを目的とする。

(2) 目指す検定・資格

歯科衛生士国家資格

(3) 指導方法および学生に期待すること

授業は、一斉授業を基本に実施する。

衛生行政・社会福祉に関する一般的知識講義するとともに、包括的に社会保障制度についても触れていく。また、業務に従事するにあたっての心構えについても指導していくのでしっかり学んで欲しい。

(4) テキスト

医歯薬出版新歯科衛生士教本
「衛生行政・社会福祉」

(5) 成績評価の方法・基準

期末における筆記試験を定期的実施し、授業出席率・授業態度および課題提出等を統合的に判断し評価する。ただし、出席率が85%を下回る場合は不可とする。

(6) 講義計画

2章 社会福祉

I 社会福祉行政

II 公的扶助

III 社会福祉の実際

4章 医療保健

I 医療保健の概要

II 医療保健の仕組み

III 医療保健の実際

付章 歯科関係法令

I 歯科衛生士関係法令

II その他関係法令

科・学年		歯科衛生士科 1年	
科目名 年間授業時数	歯科衛生士概論 30時間	担当教員	歯科衛生士

(1) 科目の目的と講義内容

専門科目として「歯科衛生士概論」を学ぶ。

歯科衛生士教育開始当初に行い歯科保健医療の概念を会得するとともに歯科衛生士としての心構えを持てることを目的とする。

講義を通し、歯科衛生士の意義を十分に理解してほしい。

(2) 目指す検定・資格

歯科衛生士国家資格

(3) 指導方法及び学生に期待すること

授業は、一斉授業を基本に実施する。

医療従事者として医療チームの一員であることを自覚し、患者から信頼される専門職として活躍するために努力してほしい。

(4) テキスト

医歯薬出版新歯科衛生士教本

「歯科衛生士概論」

(5) 成績評価の方法・基準

期末における筆記試験を実施し、授業出席率受講態度及び課題提出等を総合的に判断し評価する。

ただし、出席率が85%を下回る場合は不可とする。

(6) 講義計画

- 1章 歯科衛生士とは
- 2章 歯・口の健康と疾病・異常
 - I 健康とは
 - II 歯・口の健康
 - III 主な歯・口の疾病・異常
- 3章 歯科医療と歯科保健
- 4章 歯科医療保健を支えるもの
 - I 歯科医療の三要素
 - II 歯科医療の目標
 - III 歯科医療の内容
 - IV 歯科医療の特異性
 - V 歯科医療の分野
- 5章 歯科医療保健に携わる人
- 6章 歯科衛生士の役割
 - I 歯科衛生士の業務
 - II 歯科衛生士の活動場面での役割
 - III 責任と活動
 - IV 米国の歯科衛生士の活動と倫理規定
- 7章 歯科衛生士業務の発展
- 8章 歯科衛生士に特に必要な心構えと知識・技能
- 9章 歯科衛生士の業務の展開
- 10章 歯科衛生士の略史
- 11章 外国の歯科医療・保健補助員

科・学年		歯科衛生士科 1年	
科目名 年間授業時数	生命・医療倫理学 30時間	担当教員	歯科医師 歯科衛生士

(1) 科目の目的と講義内容

高齢化社会に伴い在宅・施設での歯科医療サービスを提供する機会が増え、他の医療職種の人たちと関わるが多くなった。医療チームの一員として倫理的判断に基づいた行動がとれることが求められている。患者から信頼される専門職として活躍する為に講義を通し、歯科衛生士の意義を十分に理解して欲しい。

(2) 目指す検定・資格

なし

(3) 指導方法および学生に期待すること

授業は、一斉授業を基本に実施する。歯科医療保健の概念を会得するとともに歯科衛生士としての心構えをもてることを目的とする。

(4) テキスト

医歯薬出版新歯科衛生士教本
「歯科医療倫理」・「心理学」

(5) 成績評価の方法・基準

期末における筆記試験を定期的 to 実施し、授業出席率・授業態度および課題提出等を総合的に判断し評価する。

ただし、出席率が85%を下回る場合は不可とする。

(6) 講義計画

医療倫理学

序章 今なぜ歯科衛生士は医療倫理を学ぶのか

1章 医療従事者としての歯科衛生士の心構え

2章 インフォームドコンセント

3章 QOL (クオリティーオブライフ：生活の質)

4章 行動科学とは

5章 チームアプローチとは

6章 医療現場におけるコミュニケーション
患者理解のために

7章 演習：このようなとき、歯科衛生士としてどう対処するか

付章 バイオエシックス (生命倫理) について

科・学年		歯科衛生士科 1年	
科目名 年間授業時数	歯科臨床概論 30時間	担当教員	歯科医師 歯科衛生士

(1) 科目の目的と講義内容

専門科目の「臨床歯科医学」の領域として歯科臨床概論を学ぶ。

歯科医療の概要を学び、その診療補助の基礎となる知識を得ることを目的とする。

(2) 目指す検定・資格

歯科衛生士国家資格

(3) 指導方法及び学生に期待すること

授業は、一斉授業を基本に実施するが適宜、実習も取り入れていく。

臨床の基礎となる科目なので、真剣に授業に取り組んで欲しい。

(4) テキスト

医歯薬出版新歯科衛生士教本

「歯科臨床概論」

(5) 成績評価の方法・基準

期末における筆記試験を実施し、授業出席率・受講態度及び課題提出等を総合的に判断し評価する。

ただし、出席率が85%を下回る場合は不可とする。

(6) 講義計画

- 1章 歯科医療
- 2章 歯科疾患
- 3章 歯科疾患の概要
- 4章 歯科診療所
- 5章 歯科診療の流れの概要
- 6章 歯科保存治療の概要
- 7章 歯周治療の概要
- 8章 歯科補綴治療の概要
- 9章 小児歯科治療の概要
- 10章 矯正歯科治療の概要
- 11章 口腔外科治療の概要
- 12章 歯科治療の変遷

科・学年		歯科衛生士科 2年	
科目名 年間授業時数	歯科補綴学 30時間	担当教員	歯科医師

(1) 科目の目的と講義内容

歯科補綴学の概要を学びその診療補助の能力を身に付けられることを目的とする。

(2) 目指す検定・資格

歯科衛生士国家資格

(3) 指導方法及び学生に期待すること

授業は、一斉授業を基本に実施する。
広い範囲に及ぶ知識と専門技術の修得を要される為、歯科補綴臨床においての歯科診療補助範囲を考慮しながら講義を進めていく。

(4) テキスト

医歯薬出版新歯科衛生士教本
「歯科補綴学」

(5) 成績評価の方法・基準

期末における筆記試験を定期的に行い、授業出席率・受講態度及び課題提出等を総合的に判断し評価する。

ただし、出席率が 85%を下回る場合は不可とする。

(6) 講義計画

Ⅱ 臨床編

① クラウン

- ア) クラウンの分類
- イ) 臨床ステップの概要
- ウ) 患者指導

② ブリッジ

- ア) ブリッジの構成と材料
- イ) 臨床ステップの概要
- ウ) 診査・診断・前処置
- エ) 支台歯形成
- オ) 印象採得・咬合採得・技工依頼
- カ) 技工操作
- キ) 試適・コア印象
- ク) 完成ブリッジの試適・調整・合着

③ 部分床義歯

- ア) 部分床義歯の分類
- イ) 部分床義歯の構成
- ウ) 臨床ステップの概説
- エ) 患者指導

④ 全部床義歯

- ア) 全部床義歯の分類
- イ) 全部床義歯の構成
- ウ) 臨床ステップの概説

⑤ 補綴治療に用いられる器材とその管理

⑥ 特別な名称を持つ義歯

⑦ 補綴装置の補修・除去

⑧ 下顎運動および咬合の機能検査

⑨ 在宅訪問指導について

科・学年		歯科衛生士科 2年	
科目名 年間授業時数	口腔外科学 30時間	担当教員	歯科医師

(2) 科目の目的と講義内容

口腔外科学の概要を学び、その診療補助の能力を習得することを目的とする。

(2) 目指す検定・資格

歯科衛生士国家資格

(3) 指導方法及び学生に期待すること

授業は一斉授業を基本に実施していくが診療補助の範囲を考慮しながら講義していく。医療専門用語が多く出てくるので、しっかり理解して欲しい。

(4) テキスト

医歯薬出版新歯科衛生士教本
「口腔外科学」

(5) 成績評価の方法・基準

期末における筆記試験を定期的に行い、授業出席率・受講態度及び課題提出等を総合的に判断し評価する。

ただし、出席率が 85%を下回る場合は不可とする。

(6) 講義計画

I 編

1章 口腔外科とは

2章 口腔疾患と内科系疾患との関係

II 編 口腔外科領域の主な疾患

11章 口腔領域の神経疾患

12章 血液疾患と出血性素因

13章 口腔粘膜疾患

14章 口腔領域の炎症

15章 顎関節疾患

16章 口腔領域ののう胞

17章 口腔領域の腫瘍

18章 唾液腺疾患

19章 口腔領域と出血性要因

20章 血液疾患と出血性素因

付章 口腔・顔面に症状を表す症候群

III 章 口腔外科診療の実際

7章 診察と診断

8章 滅菌と消毒

9章 創傷処置

10章 抜歯術

11章 口腔外科小手術

12章 口腔出血に対する処置法

科・学年		歯科衛生士科 2年	
科目名 年間授業時数	矯正歯科学 30時間	担当教員	歯科医師

(1) 科目の目的と講義内容

歯科矯正学の概要を学び、その診療補助の能力を習得することを目的とする。

(2) 目指す検定・資格

歯科衛生士国家資格

(3) 指導方法及び学生に期待すること

授業は、一斉授業を基本に実施する。項目によっては診療補助の範囲も含まれる。現代では歯科矯正治療に対するニーズが高まってきているので、関心をもって授業に臨んで欲しい。

(4) テキスト

医歯薬出版新歯科衛生士教本
「歯科矯正学」

(5) 成績評価の方法・基準

期末における筆記試験を定期的に行い、授業出席率・受講態度及び課題提出等を総合的に判断し評価する。

ただし、出席率が85%を下回る場合は不可とする。

(6) 講義計画

- | | |
|-----|---------------------|
| 1章 | 歯科矯正学概論 |
| 2章 | 成長・発育 |
| 3章 | 咬合 |
| 4章 | 口腔習癖 |
| 5章 | 矯正治療の生物力学 |
| 6章 | 矯正診断に関する知識 |
| 7章 | 矯正治療に使用する器材とその取り扱い方 |
| 8章 | 矯正装置 |
| 9章 | 保定 |
| 10章 | 歯科矯正治療の実際 |
| 11章 | 歯科矯正における歯科衛生士の役割 |

科・学年		歯科衛生士科 1年	
科目名 年間授業時数	歯科保存学 30時間	担当教員	歯科医師 歯科衛生士

(1) 科目の目的と講義内容

歯科保存修復学の概要を学び、その歯科診療補助の能力を得ることを目的とする。

(2) 目指す検定・資格

歯科衛生士国家資格

(3) 指導方法および学生に期待すること

授業は、一斉授業を基本に実施するが、項目によっては診療補助の範囲を考慮しながら進めていく。保存治療に関する器具等は示説していく。

(4) テキスト

医歯薬出版新歯科衛生士教本

「保存修復学・歯内療法学」

「歯周治療学」

医歯薬出版最新歯科衛生士教本

「歯周病疾患」

(5) 成績評価の方法・基準

期末における筆記試験を定期的 to 実施し、授業出席率・授業態度および課題提出等を統合的に判断し評価する。ただし、出席率が85%を下回る場合は不可とする。

(6) 講義計画

Ⅱ編 歯科保存修復学

1章 保存修復学の意味と概要

2章 アマルガム修復

3章 コンポジットレジン修復

4章 セメント修復

5章 ラミネートベニア修復

6章 鑄造修復

7章 その他の修復法

科・学年		歯科衛生士科 各学年	
科目名	歯科予防処置	担当教員	歯科衛生士
年間授業時数	120時間（1年）		
	120時間（2年）		
	60時間（3年）		

（１）科目の目的と講義内容

歯科予防処置について十分理解し、その手技を熟練していくとともに相互実習の訓練を通じて、術者との共同動作を熟練することを目的とする。

（２）目指す検定・資格

歯科衛生士国家資格

（３）指導方法及び学生に期待すること

授業は、一斉授業を基本に実施していきながら随時、実習を取り入れていく。

相互実習においては、準備および実施は慎重に行うように努めて欲しい。

（４）テキスト

医歯薬出版新歯科衛生士教本

「歯科予防処置」

（５）成績評価の方法・基準

期末における筆記試験を定期的実施し、授業出席率・受講態度及び課題提出等を総合的に判断し評価する。

ただし、出席率が８５％を下回る場合は不可とする。

（６）講義計画

I 予防的歯石除去法

- ⑥特殊スケーラー操作
- ⑦超音波スケーラー操作
- ⑧歯周ポケット測定
- ⑨歯面研磨

II 齲蝕予防処置

- ①齲蝕予防処置法の基礎
- ②フッ化物局所応用
- ③鍍銀法およびフッ化ジアミン銀応用
- ④窩溝填塞
- ⑤齲蝕活動性試験等
- ⑥集団齲蝕予防処置

科・学年		歯科衛生士科 1 年	
科目名 年間授業時数	栄養指導 30 時間	担当教員	管理栄養士

(1) 科目の目的と講義内容

専門科目の「口腔保健学」の領域として栄養指導学を学ぶ。

栄養学の概要を学び、歯科保健指導及び歯科衛生教育を適切に行うのに必要な栄養と食事指導について十分理解することを目的とする。

(2) 目指す検定・資格

歯科衛生士国家資格

(3) 指導方法及び学生に期待すること

授業は、一斉授業を基本に実施する。

調理実習も取り入れながら、実践で役立つ実学として学んで欲しい。

グループ単位で学習させるといった形式をとることもある。

(4) テキスト

医歯薬出版新歯科衛生士教本

「栄養指導」

その他参考文献は適宜紹介する。

(5) 成績評価の方法・基準

期末における筆記試験を定期的 to 実施し、授業出席率・受講態度及び課題提出等を総合的に判断し評価する。

ただし、出席率が 85% を下回る場合は不可とする。

(6) 講義計画

I 編 栄養の基礎

1 章 栄養の基礎知識

1. 栄養素の消化・吸収
2. 食生活と栄養

2 章 栄養主要量—食事摂取基準—

1. エネルギー所要量

3 章 糖質

1. 糖質の種類
2. 糖質の栄養的意味

4 章 タンパク質

1. タンパク質の種類
2. タンパク質の栄養的意味

5 章 脂質

1. 脂質の種類
2. 脂質の栄養的意味

6 章 ビタミン

1. ビタミンの意味
2. ビタミンの栄養的意味

7 章 無機質

II 編 食生活と食品

1 章 食生活の概要

1. 食生活の意味
2. 食生活と咀嚼
3. 歯の喪失と食生活

2 章 食品

1. 食品成分表
2. 栄養バランス

3 章 食品のう蝕誘発性

4 章 咀嚼と食品

科・学年		歯科衛生士科 1・2年	
科目名 年間授業時数	歯科保健指導法 60時間（1年） 120時間（2年）	担当教員	歯科医師 歯科衛生士

（１）科目の目的と講義内容

専門科目の「口腔保健学」の領域として歯科保健指導論を学ぶ。

歯科保健指導および歯科衛生教育の基礎的技法を習熟し、臨床および公衆衛生活動に十分対応し得る能力を養うことを目的とする。

（２）目指す検定・資格

歯科衛生士国家資格

（３）指導方法及び学生に期待すること

授業は、一斉授業を基本に実施する。

適宜、実習を取り入れていくが実習においては口腔衛生学および栄養指導との連携をとりながら進めていく。歯科保健指導は歯科衛生士業務の中で大変重要な役割となることをしっかり把握し臨んで欲しい。

（４）テキスト

医歯薬出版新歯科衛生士教本

「歯科保健指導」

（６）講義計画

I 編 歯科保健指導総論

- 1 章 総説
- 2 章 歯科保健指導の基礎
- 3 章 歯科保健行動
- 4 章 歯科保健指導の方法
- 5 章 対象の把握法
- 6 章 小集団指導法
- 7 章 訪問口腔衛生指導

II 編 歯科保健指導実習

- 1 章 総説
- 2 章 口腔清掃自習法
- 3 章 口腔観察法実習
- 4 章 口腔清掃指導法実習
- 5 章 面接・問診法実習
- 6 章 症例検討法実習
- 7 章 小集団指導法実習
- 8 章 訪問口腔衛生指導法実習
- 9 章 ブラッシング指導モデル実習
- 10 章 情報収集・整理法実習

（５）成績評価の方法・基準

期末における筆記試験を定期的 to 実施し、授業出席率・受講態度及び課題提出等を総合的に判断し評価する。

ただし、出席率が85%を下回る場合は不可とする。

科・学年		歯科衛生士科 1年	
科目名	歯科材料	担当教員	歯科医師 歯科衛生士
年間授業時数	30時間		

(1) 科目の目的と講義内容

歯科衛生士の現場において、歯科器機の具体的な形状・名称・用途を正しく理解し、事故防止を含めた取り扱い上の諸注意をわきまえ、加えて歯科医療従事者の常識としての歯科材料の知識の習得を目指す。

(2) 目指す検定・資格

歯科衛生士国家資格

(3) 指導方法及び学生に期待すること

授業は、一斉授業を基本に実施していくが診療補助の範囲を考慮しながら、安全管理及び患者に対して理解しやすい説明ができるよう講義していく。

(4) テキスト

「歯科機械の知識と取り扱い」

「歯科材料の知識と取り扱い」

(5) 成績評価の方法・基準

期末における筆記試験を定期的実施し、授業出席率・受講態度及び課題提出等を総合的に判断し評価する。

ただし、出席率が85%を下回る場合は不可とする。

(6) 講義計画

歯科機械の知識と取り扱い

- I 電気とガスの知識
- II 一般診療用器機
- III 療法別器機

歯科材料の知識と取り扱い

- I 序説
 - 1章 歯科材料と歯科衛生士
 - 2章 歯科材料の基礎知識
- II 歯科材料の取り扱い
 - 1章 シーラント
 - 2章 成形歯冠修復用コンポジットレジン
 - 3章 グラスアイオノマーセメント
 - 4章 歯科用アマルガム
 - 5章 仮封材
 - 6章 暫間被覆材料及び仮着材
 - 7章 アルジネート印象材
 - 8章 寒天印象材
 - 9章 ゴム質（エラストマー）印象材
 - 10章 その他の印象材
 - 11章 ワックス
 - 12章 模型及び模型材料
 - 13章 合着材及び接着剤
- III 歯科補綴装置と材料
 - ア) クラウン・ブリッジ
 - イ) 局部床義歯の維持装置とインプラント
 - ウ) 人工歯及び床用材料
 - エ) 鑄造・ろう付け・重合
 - オ) 研磨と研磨材

科・学年		歯科衛生士科 2年	
科目名 年間授業時数	臨床検査法 30時間	担当教員	臨床検査技師 有資格者

(1) 科目の目的と講義内容

医療業界における臨床検査の種類と方法について学習し、併せて疾病を伴う患者に対するケアについて知識の習得を目指す。

(2) 目指す検定・資格

歯科衛生士国家資格

(3) 指導方法及び学生に期待すること

臨床現場における検査などの実態について学び、臨地実習へ活かしていく。

(4) テキスト

医歯薬出版新歯科衛生士教本
「臨床検査」

(5) 成績評価の方法・基準

実習施設においての、出欠状況・実習態度・実習業務においての、理解力・実践力について各実習施設の指導教官が評価をしていく。

ただし、歯科衛生士国家試験の受験資格として必須である為所定の時間に満たない場合は不可とする。

(6) 講義計画

- 1章 臨床検査とは
- 2章 生体検査（生理機能検査）
 - 1 体温検査
 - 2 脈拍検査
 - 3 血圧検査
 - 4 心機能検査
 - 5 肺機能検査
 - 6 筋電図検査
 - 7 脳波検査
- 3章 検体検査
 - 1 血液を用いる検査
 - 2 感染症（細菌）検査
 - 3 病理検査
- 4章 口腔領域の臨床検査
 - 1 口臭検査
 - 2 味覚検査
 - 3 歯科金属アレルギー検査
 - 4 舌の観察
 - 5 口腔粘膜の観察
- 5章 摂食嚥下関連の検査
 - 1 摂食嚥下障害のスクリーニング
 - 2 摂食嚥下障害の検査法
- 付章 主な疾病・病態別検査値のとりえ方

科・学年		歯科衛生士科 1年	
科目名 年間授業時数	歯科診療補助論 30時間	担当教員	歯科医師 歯科衛生士

(1) 科目の目的と講義内容

専門科目の「口腔保健学」の領域として歯科診療補助論を学ぶ。

歯科診療補助に関する知識を取得し、その基礎的な実技を習熟し、臨床の場に十分対応し得る能力としていく事を目的とする。

(2) 目指す検定・資格

歯科衛生士国家資格

(3) 指導方法及び学生に期待すること

授業は、一斉授業を基本に実施する。

適宜、実習を取り入れていく

(4) テキスト

医歯薬出版新歯科衛生士教本

「歯科診療補助 歯科器械の知識と取り扱い」

(5) 成績評価の方法・基準

期末における筆記試験を定期的実施し、授業出席率・受講態度及び課題提出等を総合的に判断し評価する。

ただし、出席率が85%を下回る場合は不可とする。

(6) 講義計画

1. 歯科材料の基礎知識
2. 模型用材料取り扱い
3. 歯科用材料取り扱い
4. 歯科用機器の仕組みと取り扱い
5. 歯科用各種小器具取り扱い
6. 臨床検査法の基礎及び器具取り扱い
 - ア) 微生物検査
 - イ) 血清学的検査
 - ウ) 血液学的検査
 - エ) 病理学的検査
 - オ) 生化学的検査
 - カ) 生理学的検査
7. 歯科診療共同動作の基礎知識
8. 歯科診療共同動作実習

(エックス線撮影補助実習を含む)
9. 心身障害(児)者等介助
10. エックス線フィルム現像及び整理
11. 各科特殊材料取り扱い
12. 看護及び救急法
13. その他臨床検査の概要
14. その他必要な実習、受け付け事務等

科・学年		歯科衛生士科 各学年	
科目名	歯科診療補助実習	担当教員	歯科医師 歯科衛生士
年間授業時数	120時間（1年）		
	120時間（2年） 60時間（3年）		

（１）科目の目的と講義内容

専門科目の「口腔保健学」の領域として歯科診療補助論を学ぶ。

歯科診療補助に関する知識を取得し、その基礎的な実技を習熟し、臨床の場に十分対応し得る能力としていく事を目的とする。

（２）目指す検定・資格

歯科衛生士国家資格

（３）指導方法及び学生に期待すること

授業は、一斉授業を基本に実施する。

適宜、実習を取り入れていく

（４）テキスト

医歯薬出版新歯科衛生士教本

「歯科診療補助 歯科器械の知識と取り扱い」

（５）成績評価の方法・基準

期末における筆記試験を定期的に行い、授業出席率・受講態度及び課題提出等を総合的に判断し評価する。

ただし、出席率が85%を下回る場合は不可とする。

（６）講義計画

1. 歯科材料の基礎知識
2. 模型用材料取り扱い
3. 歯科用材料取り扱い
4. 歯科用機器の仕組みと取り扱い
5. 歯科用各種小器具取り扱い
6. 臨床検査法の基礎及び器具取り扱い
 - ア) 微生物検査
 - イ) 血清学的検査
 - ウ) 血液学的検査
 - エ) 病理学的検査
 - オ) 生化学的検査
 - カ) 生理学的検査
7. 歯科診療共同動作の基礎知識
8. 歯科診療共同動作実習
(エックス線撮影補助実習を含む)
9. 心身障害(児)者等介助
10. エックス線フィルム現像及び整理
11. 各科特殊材料取り扱い
12. 看護及び救急法
13. その他臨床検査の概要
14. その他必要な実習、受け付け事務等

科・学年		歯科衛生士科 2・3年	
科目名 年間授業時数	臨地・臨床実習 240時間（2年） 660時間（3年）	担当教員	歯科医師 歯科衛生士

（１）科目の目的と講義内容

歯科臨床・公衆衛生および高齢者施設の現場において、円滑に業務を行う能力を身につけることを目的とする。

全て校外実習とし、歯科医療機関および高齢者施設において見学及び実習とする。

（２）目指す検定・資格

歯科衛生士国家資格

（３）指導方法及び学生に期待すること

実習は原則として指定された臨床・臨地実習施設にて行う。実習に当たっては、指導教官である歯科医師及び施設長の指示のもとで行う。

貴重な実習期間であること自覚し、責任をもって臨んで欲しい。

（４）テキスト

臨床実習ノート

（５）成績評価の方法・基準

実習施設においての、出欠状況・実習態度・実習業務においての、理解力・実践力について各実習施設の指導教官が評価をしていく。

ただし、歯科衛生士国家試験の受験資格として必須である為所定の時間に満たない場合は不可とする。

（６）講義計画

1. 基本姿勢
 - ①身だしなみ
 - ②接遇・礼儀・言葉遣い
 - ③医療人としての心構え
 - ④自己の健康管理
 - ⑤秘密の厳守
 - ⑥実習上の限界と自覚
 - ⑦積極性
 - ⑧協調性
2. 受付業務
 - ①受付対応
 - ②受付事務
 - ③金銭の取り扱い
 - ④文書の発行
3. 歯科診療の介助
 - ①チェアサイドの介助
 - ②歯科材料の取り扱い
4. 歯科予防処置
 - ①歯石除去
 - ②う蝕予防処置
5. 歯科診療の補助
6. 歯科保健指導
7. 診療室の管理
 - ①環境整備（清掃）
 - ②滅菌と消毒
 - ③薬品の取り扱い
 - ④医療廃棄物

科・学年		歯科衛生士科 3年	
科目名	情報処理論	担当教員	情報処理 有資格者
年間授業時数	120時間		

(1) 科目の目的と講義内容

初心者を含め、級取得者もさらに上級を目指す事を目的とする。

(2) 目指す検定・資格

文書処理能力検定 3級・2級

情報処理技能検定 3級・2級

(3) 指導方法および学生に期待すること

講義形式を基本に授業を行うが、適宜演習問題、実技等を取り入れる。

(4) テキスト

文書処理ワークブック 4・3・2級

表計算ワークブック 4・3・2級

(6) 講義計画

文書処理能力検定 (Word)

1. タイピング練習
2. Word の特徴と文字ずれ
3. 基本的な編集機能と文字ずれ
4. 社内文書を作成する
5. 社外文書を作成する
6. 見やすい図表を作成する
7. 検定対策

情報処理技能検定 (Excel)

1. 4級問題を用いながら表計算・基礎
2. 3級問題練習
3. 2級問題練習

(5) 成績評価の方法・基準

学期途中及び期末に検定試験を実施し、検定取得を評価とする。

科・学年		歯科衛生士科 1年	
科目名 年間授業時数	医学的基礎知識 60時間	担当教員	歯科医師 歯科衛生士

(1) 科目の目的と講義内容

歯科医療現場の基礎知識として、歯科器材の種類や取り扱い方法や、現代では基礎的といえる障害者に対する歯科衛生士の役割も併せて学ぶ。

(2) 目指す検定・資格

歯科衛生士国家資格

(3) 指導方法および学生に期待すること

授業は、一斉授業を基本に講義形式で行うが、適宜演習問題、実技等を取り入れていく

(4) テキスト

器材保健協会

「機材準備マニュアル」

医歯薬出版

「障害者歯科」

(5) 成績評価の方法・基準

期末における筆記試験を定期的 to 実施し、授業出席率・受講態度及び課題提出等を総合的に判断し評価する。

ただし、出席率が85%を下回る場合は不可とする。

(6) 講義計画

器材準備マニュアル

1. 初診診査
2. 応急処置
3. エックス線撮影
4. スタディモデル用の印象
5. プラークコントロール
6. 歯周病診査
7. スケーリングとPMTC
8. ラバーダム防湿
9. 局所麻酔
10. 歯髄覆罩（覆髄）

障害者歯科

- 1章 障害者の現況
- 2章 障害者の歯科診療
- 3章 障害の種類と歯科的特徴
- 4章 障害者と薬剤
- 5章 障害者歯科における歯科衛生士の役割
- 6章 障害者の歯科診療と歯科診療補助
- 7章 障害者の口腔保健管理
- 8章 障害者の歯科保健指導の留意点と指導の実際
- 9章 障害者歯科医療・保健施設における歯科衛生士の役割

科・学年		歯科衛生士科 2年	
科目名 (年間授業時数)	接遇作法 30時間	担当教員	歯科衛生士

(1) 科目の目的と講義内容

必修科目において習得した基礎的な専門知識や技術をもとに、さらに高度な専門知識や技術を明付けることを目的とする。

(2) 目指す検定・資格

社会常識検定

サービス接遇検定

(3) 指導方法および学生に期待すること

講義形式を基本に授業を行うが、適宜演習問題、実技等を取り入れる。

(4) テキスト

社会常識検定問題集 (3級)

サービス接遇検定テキスト3級受験ガイド

サービス接遇検定テキスト問題集3-4級

(5) 成績評価の方法・基準

学期途中及び期末に検定試験を実施し、検定取得を評価とする。

(6) 講義計画

- 1 職業間と企業
社会人としての自覚とプロ意識／企業の組織と仕事／社会の仕組み
- 2 仕事の進め方
仕事と目標／効率化と改善／リスクマネジメント
- 3 一般知識
ビジネスパーソンとしての社会常識／コミュニケーションとしての日本語／基礎用語、基礎知識
- 4 職場の人間関係
職場のコミュニケーション／第一印象の重要性／挨拶
- 5 社会人としての話し方
敬語／効果的な話し方
- 6 ビジネス文書
ビジネス文書の知識／社内文書／社外文書／グラフ／ビジネスメール
- 7 職場のマナー
職場におけるマナーの重要性
- 8 接遇マナー
接遇マナーの意義と心構え／来客対応の手順／訪問のマナー
- 9 電話応対
電話の特性と心構え／電話の話し方／電話のかけ方／携帯電話のマナー
- 10 交際業務
慶事のマナー／弔辞のマナー／贈り物と上書き／会食
- 11 会議・郵便の知識・ファイリング

科・学年		歯科衛生士科 1年	
科目名 年間授業時数	医療関係法規 60時間	担当教員	歯科医師 歯科衛生士

(1) 科目の目的と講義内容

口腔保健管理は主要三科目を総合的にとらえるものである。また、近い将来、カルテの開示が一般化されることになると、歯科衛生士の業務記録の公開も求められることになる。

そうなった場合のために、医療関係法規をまじえて歯科衛生士の業務記録の作成方法を学ぶ。

(6) 講義計画

- | | |
|----|-----------------|
| 1章 | 口腔疾患予防の臨床＜基礎知識＞ |
| 2章 | 生涯を通じた口腔保健管理 |
| 3章 | 口腔観察と口腔清掃 |
| 4章 | 業務記録 |
| 5章 | 口腔保健管理の演習 |

(2) 目指す検定・資格

歯科衛生士国家資格

(3) 指導方法および学生に期待すること

授業は、一斉授業を基本に講義形式で行うが、適宜演習問題、実技等を取り入れていく

(4) テキスト

医歯薬出版

「口腔保健管理」

(5) 成績評価の方法・基準

期末における筆記試験を定期的実施し、授業出席率・受講態度及び課題提出等を総合的に判断し評価する。

ただし、出席率が85%を下回る場合は不可とする。

科・学年		歯科衛生士科 2年	
科目名 年間授業時数	歯科医療事務 30時間	担当教員	医療事務管理士 有資格者

(1) 科目の目的と講義内容

保健診療における、診療の明細書（レセプト）の作成から提出までの流れを学び、診療機関での保険請求業務を行えることを目的とする。

(2) 目指す検定・資格

医療事務管理士（歯科）

(3) 指導方法および学生に期待すること

授業は、一斉授業を基本に講義形式で行うが、適宜演習問題、実技等を取り入れていく

(4) テキスト

日本医療事務センター
歯科医療事務テキスト

(5) 成績評価の方法・基準

技能認定振興協会の認定試験を受け、資格取得を評価とする。

(6) 講義計画

1. 明細書（レセプト）作成の基本
 - 1) レセプトの種類
 - 2) レセプトの記載事項
2. 点数表と記載要領
 - 1) 基本的事項
 - 2) 基本診療料
 - 3) 特掲診療料
3. 薬価表
4. レセプト点検
5. 総括
6. カルテ、レセプトで使用される略称